

北海道融雪災害対策連絡部会議 ＜結果概要＞

令和3年（2021年）3月8日
北海道総務部危機対策局危機対策課

1 開会（危機対策課）

「北海道融雪災害対策連絡部会議」を開催する。

北海道融雪災害対策実施要綱において設置期間は3月15日～6月15日とされているが、既に雪崩等による被害が発生しておりますことから、今後の気象等に関する情報共有を図り、災害対策に万全を期すため、お集まりいただいた。

なお、オンラインでの参加機関があることと、振興局もオンラインで参加していることをお知らせする。

2 状況報告

(1) 今後の気象状況について（札幌管区气象台）

道内の積雪の状況について、日本海側では広域に100センチを超える積雪となっており、石狩北部の新篠津や南空知の岩見沢では、平年比の約1.7倍の積雪深となっている。

主要地点の積雪の推移について、日最深積雪及び累積降雪量ともに、札幌市は概ね平年どおり。岩見沢市については、両値とも平年値を大きく超過

今後の予想について、向こう一週間は、高気圧に覆われて晴れる日もあるが、気圧の谷や寒気の影響により曇りの日が多く、期間のはじめは雪や雨の降る所がある見込み。また、最高気温・最低気温はともに、平年並か平年より高く、期間の後半はかなり高い所もある見込み。

向こう3か月の見通し（3月～5月）について、暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込み。

防災上の留意点について、気温上昇による雪解け「低地の浸水」「川の増水」、雨が降らなくても雪解けにより、浸水や増水のおそれがある。

雪の残る斜面での「なだれ」、「土砂災害」、気温の上昇により屋根からの落雪や「なだれ」が起きやすく、雪解け水で地盤もゆるむ。雪解けに加えて大雨が予想される場合には、一層の注意・警戒が必要。

(2) 北海道融雪災害対策連絡部について（危機対策課）

本連絡部は、「北海道融雪災害対策実施要綱」により、融雪災害に関する予防対策及び応急対策の円滑な実施を図るため、3月15日～6月15日に設置されるが、既に雪崩等による被害が発生していることから、本年は前倒しで設置するもの。

また、現在、各機関に、融雪対策資料について、修正の有無等確認を依頼しており、修正の反映については、後日連絡するとともに道HPでも公開する。

(3) 各機関における融雪災害対策について

ア 危機対策課

雪害被害の状況について、死傷者は2月末現在で351人と、ここ5年で最も多くなっており、そのうち雪下ろしや除雪中の被害が9割を占めている。

当課では、気温が高くなる際のSNSでの注意喚起や、道のトップページに、除雪中などの事故防止を啓発するページに誘導するバナーを掲載している。

関係機関においても、引き続き事故防止の注意喚起にご協力をお願いする。

なお、なだれが多発した今月2日には、開発局・道警からリエゾンを派遣いただき、連携を密にして、災害発生に備えた。

- イ 北海道開発局
ホームページやTwitter等で通行止め情報を公表し、道路利用者に注意喚起を行っている。災害が発生した場合はリエゾンを派遣する。
- ウ 北海道運輸局
関係機関から提供があった情報をTwitter等で情報発信している。
- エ 陸上自衛隊北部方面総監部
関係機関等と連携し、災害派遣を行える体制を整備する。
- オ 北海道警察本部
ホームページでバックカントリーの遭難防止をはじめ、冬山登山に関する注意喚起を実施。融雪に伴う事案が発生した場合、関係機関と情報共有し、救出救助、通行規制を実施する。
- カ 北海道建設部
今日時点で雪崩や融雪に伴う冠水による通行止めは発生していない、今後、道路情報を得た場合、関係機関に提供する。
- キ 全国消防長会北海道支部
災害発生時は全道の消防機関と災害対応にあたる所存。
- ク 東日本高速道路株式会社北海道支社
天候等に応じて小まめな道路点検を実施するとともに、国道、道道を所管する期間とも緊密に連携する。
- ケ 東日本電信電話株式会社北海道事業部
融雪機に備えて、管理部音に注意喚起。災害発生時は関係機関と連携する。
- コ 株式会社NTTドコモ北海道支社
24時間365日、通信設備の監視をしている。災害発生時はスマホ、タブレット、衛星電話を貸し出せるようにしている。
- サ KDDI株式会社
24時間365日、通信エリアの監視。有事の際は通信機器の貸出しを実施する。
- シ ソフトバンク株式会社
災害情報の伝達と、通信エリアの管理、障害発生時の早期復旧を実施する。
- ス 日本放送協会札幌拠点放送局
被害が想定される場合、テレビ、ラジオ等で事前の防災情報を提供するとともに、緊急性の高い情報はテレビ画面に常時字幕スーパーを掲載する。
- セ 北海道旅客鉄道株式会社
雪崩による事故を警戒するため、気象情報の収集しながら事故防止を図る。
- ソ 北海道電力株式会社
融雪期の特別な対策はないが、有事の際は迅速に対応する。

3 閉 会 (危機対策課)

今後の天気の見込みについて、先ほど气象台から説明いただいたとおり、3月は例年より気温が高く推移する見込みで、雪解けが本格化するものと考えられる。今冬は記録的な大雪により、雪下ろしや除雪による事故を中心に、雪による人的被害が過去5年間で最多となっている。

先週も気温が高い日を中心に、雪崩が発生し、車両が巻き込まれたり、落雪に起因する住家の倒壊により負傷者が出るなど、各地で被害が発生している。

まだ積雪が多く残っている地域が多数あり、これから本格的な雪解けの季節を迎えるにあたって、これまでの除雪中の事故や雪崩に加え、融雪による土地の浸水や道路冠水、河川の増水、土砂災害の発生なども懸念される。

このような被害の対策に万全を期するため、各連絡部員の皆様とは、より一層連携を密に対応して参りたい。

また、道民の皆様に対して、災害への備えや事故防止などの注意喚起について、引き続き、関係機関や市町村、報道機関の皆様からもあらゆる機会を通じてお願いしたい。

最後に、中央防災会議からの「融雪取水期における防災体制の強化について」を添付したが、関係機関の皆様、また、振興局からは市町村にも繋いでいただき、情報の収集・伝達の徹底や警戒避難体制の強化、危険箇所等の巡視・点検の実施の徹底等に特に留意いただき、態勢の強化をお願いする。

なお、今後、災害の発生が見込まれる場合など、急遽、連絡部会議を開催することもあるため、引き続き、よろしく願います。

<以 上>